

皆様いかがお過ごしでしょうか。地元の方々からは、「今年は暖冬で、初めてのモントリオールでの冬を迎える貴総領事はラッキーですね（「普段の冬はもっと厳しいですよ」というニュアンスを含めつつ）」と口々に言われました。これも世界各地で起きている気候変動の一環でしょうか。

● 1月21日と2月4日、年初の恒例行事であるケベック市とモントリオール市の茶道裏千家淡交会による初釜に出席させていただきました。それぞれ、厳かでありつつ、心のこもったおもてなしをいただきました。初釜を皮切りに年間を通じて、各市で、それぞれの先生方が日本の伝統文化である茶道の神髄をカナダ人の方々にわかりやすく、優しく、きちんと教えておられることに頭が下がります。ますます多くのカナダ人の方が、茶道教室の門戸をたたくことで日本文化に触れていただければと思います。当館も、引き続き茶道の普及活動を応援していきます。



● 1月30-31日、ケベック国際関係・仏語圏省（MRIF）が年始に主催する恒例の領事団向けケベックデーに参加してきました。ルソー州首相、ビロン州国際関係大臣、ロワ州議会議長等とお会いし、日本とケベックの関係についてお話しすることができました。また、主要大臣や公的機関トップによる政策説明や、量子コンピュータに関する視察等、盛りだくさんの日程でした。新米の総領事たちを温かく迎え入れ、ケベックの魅力を紹介してくれた MRIF や関係機関の皆様に改めて感謝申し上げます。



● 2月2日、モントリオール日本商工会との新年賀詞交換会を行わせていただきました。私の方からは、日本とカナダは、法の支配に基づく自由で開かれた国際秩序の堅持について価値観を共有していること、加えて、連邦政府、ケベック州ともインド太平洋戦略を策定しており、アジア重視の姿勢を示していることを紹介しました。かかるなかで、新年早々、上川外務大臣がモントリオールを訪問し、ジョリー外相との間で個人的信頼関係が強化されたことも報告しました。また、経済分野でも、昨年9月には、バッテリー・サプライチェーン及び量子・AI等の産業技術に関する協力覚書の署名が行われ、エネルギー、鉱物資源、科学技術など様々な分野で関係強化が期待されます。人の往来についても、2023年のJNTO暦年統計では、カナダ人の日本への渡航が、コロナ前の水準を超え、過去最高の42.6万人となりました。当館としても日本食・日本酒を含む日本文化について一層魅力を発信していく所存です。



● 2月11日、サンヴァランタン市における「ジャパン・デー」に合わせ、同市を訪問しました。岡山県美作市と姉妹都市提携をしている同市は、日本の「建国記念の日」を「ジャパン・デー」と名付け、様々な日本関連イベント等を行ってきました。リュック・ヴァン・ヴェルゼン同市議会議員ら市の関係者と面会し、姉妹都市関係にかかる同市の取り組みに対して謝意を述べ、総領事館としても引き続き応援していくことを伝えました。



● 2月13日、当地の和太鼓グループ「嵐太鼓」のメンバーの方々と意見交換を行いました。嵐太鼓は、約40年に亘り、モントリオールだけでなくケベック州各地でパフォーマンスを行い、日本の伝統文化である和太鼓の普及に貢献されてきました。現在は、若手の育成に力を入れているとのこと、今後のご活躍がますます期待されます。総領事館は、日本文化普及に尽力される「嵐太鼓」の活動を引き続き応援していきます。



上記の他にも、日本やカナダの様々な方や団体の関係者と意見交換などを行うことができ、大変有意義な1か月でした。

* 本件レターは先月号から、仏・英語にても、メルマガ購読者に配信しています。